

事業実施報告書

団体名：特定非営利活動法人クッキープロジェクト

事業名 食品表示ラベル塾 ～みんなで作って合格しよう～

1 事業の目的

福祉作業所のクッキーの商品開発支援プログラムとして、①新食品表示基準の商品表示ラベルづくりを支援する講座「ラベル塾」、②パッケージデザインの訪問相談、の2つに取り組み、その成果を販売会「クッキーバザール」でお披露目します。

福祉作業所が食品表示法改正（経過措置 2020年3月終了）の法令を遵守し、販売が継続・拡大され、障がい者の働く場を守るとともに工賃アップにつなげます。また、作業所が地域福祉の担い手として活躍できるよう人材を育成します。

2 事業内容

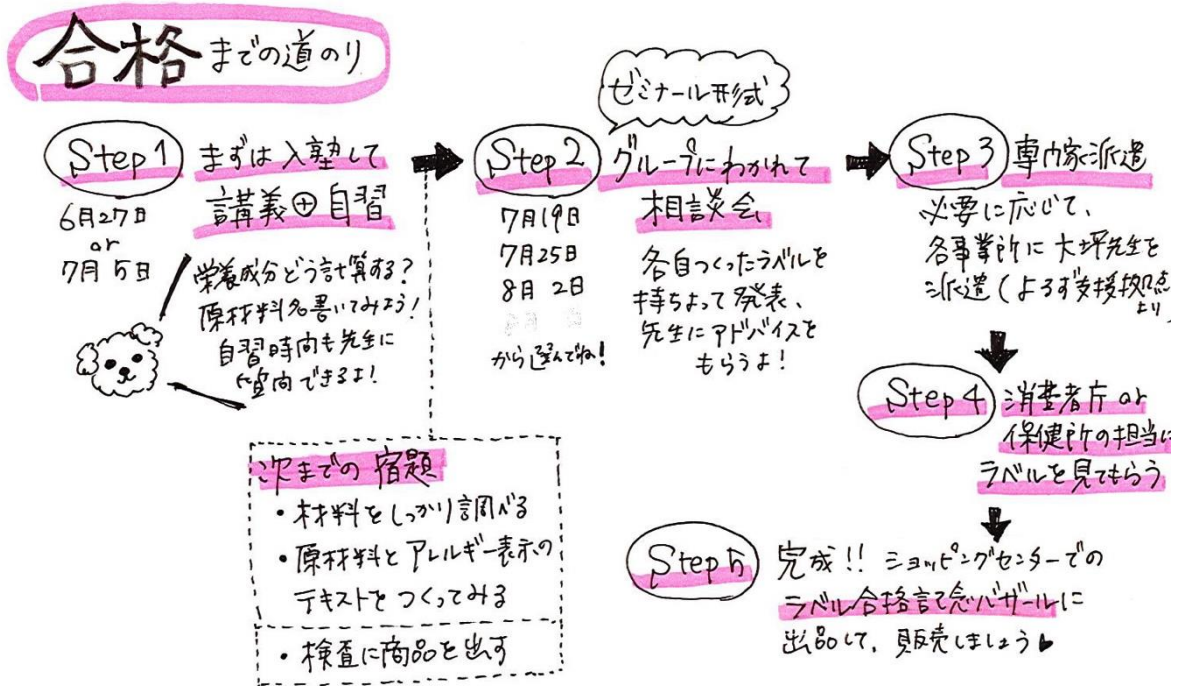
(1) 事業の概要

① 新食品表示基準の商品表示ラベルづくりを支援講座「ラベル塾」

- ・ 実際にラベルをつくる講義および相談会→STEP 1・2
- ・ バザール準備会で完成したラベルを披露→STEP 4・5

② パッケージデザインの訪問相談→STEP 3

- ・ 食品表示ラベルに関しては、よろず相談支援拠点の専門家を派遣
- ・ パッケージデザインのリニューアル支援を希望する作業所には、広報アドバイザーを派遣、ワークショップを実施し改善案を提案（4団体）



(2) 事業内容

Step 1	北浦和会場	大宮会場
	日時：6月27日 14～16時 場所：北浦和カルタスホール 参加者：15事業所・21人参加	日時：7月5日 14～16時 場所：大宮 貸会議室6F 参加者：23事業所・24人参加
講義 ＋ 自習	内容：①講義：食品表示法改正ってなんで必要なの？ポイントと変更点 埼玉県産業振興公社 よろず支援拠点 大坪晏子さん↓ ②事例報告：ラベル作成の実践と課題 【北浦和会場】晴れ晴れ 椎木芳恵さん 【大宮会場】大宮太陽の家 佐々木大さん ③ワークショップ：ラベルのレシピを作ってみよう 対象：食品の製造・販売に関わる福祉作業所関係者	



Step 2 相談会	Aグループ	Bグループ	Cグループ
	7月19日 14～16時半 場所：北浦和カルタス 参加者：8事業所10人	7月25日 14～16時半 場所：ウェスタ川越 参加者：9事業所10人	9月13日 14～16時半 場所：大宮 貸会議室6F 参加者：6事業所6人
内容：塾生が実際につくったラベルを持ち寄って発表し、 大坪先生にアドバイスいただくゼミナール方式 対象：Step 1の講義を受講した団体			



Step 3 ラベルデザイン 訪問相談	訪問先	訪問日	実施内容および提案
	第3川越い もの子作業 所	①8/17	① 悩みのヒアリング
		②10/21	② 職員12人と広報講座、いもの子カラー作成
		③12/15	③ 利用者10人と広報講座、表現活動を通じてラベル案を作成
	かわせみ	①8/30	① 悩みのヒアリング
②10/3		② 職員8人と広報講座、かわせみらしさ共有	
ほっとすて ーしょん	①9/30	①悩みのヒアリング	
	②10/17	②職員10人と広報講座、誰に届けたいかを整理	
フレンズネ ットワーク	①11/15	① 悩みのヒアリング	
	②12/5	② 商品カタログ改訂のアイデア出し	

Step 4・ 5 バザール 準備会	さいたま会場	川越会場
	1月16日(木) 18:00～19:30 場所：大宮太陽の家 参加者：12人	1月30日(木) 13:30～15:00 場所：ウェスタ川越 参加者：20人
内容：ラベル改訂の成果共有、バザール模擬販売ロールプレイ ※2月24・25日浦和コルソ、4月18日アトレ川越のクッキーバザールにて、リニューアルしたラベルをお披露目するための準備会		

(3) 連携・協力機関

埼玉県産業振興公社よろず支援拠点、埼玉県障害者支援課、(株)コミュニティコム、晴れ晴れ、大宮太陽の家、第3川越いもの子作業所

3 成果及び今後の展開

(1) 成果

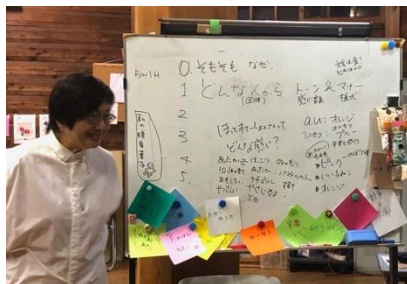
- ・ 埼玉県の助成を受けていたこともあり、県障害者支援課の協力を得ることでより広く広報することができた。予想を上回る 38 団体が参加。タイムリーにラベル塾を開催できたこともよかった。
- ・ 事例報告をとりいれたり、実際に作ったラベルを講師が赤字添削するなど、実践的でわかりやすいとの受講生の声も多かった。作業所どうしの横のつながりで学習することで、ボトムアップすることができた。
- ・ さらに電話で相談を受けたり、ラベル塾に参加できなかった作業所をよろず支援拠点につなぐなど、広くラベル改正を後押しすることができた。
- ・ パッケージデザインの訪問相談では、悩みを聴く中で、利用者のケアについては話し合うが、「だれに届けたい商品か」について話し合う機会が少ないとのことで、職員同士の話し合いができたことがよかった。
- ・ 第3川越いもの子作業所では、利用者と共にラベルを開発するという新たな取り組みにチャレンジすることができた。

(2) 課題と今後の展開

- ・ 事業実施の間、何度も消費者庁や検査機関に問い合わせ調べてもわからないことだらけだった。1月のバザール準備会では、ラベルをリニューアルした作業所は半数程度で、予想以上に改訂は困難を極めている様子だった。
- ・ 栄養成分表示などは検査機関に出してみるなども当法人でも実践したが、費用が高く負担が大きいと感じた。実際、作業所では自前で計算したり、保健所に何度も通っている様子で、検査に出せる作業所は少ない。
- ・ パッケージリニューアルは、1団体2回の訪問では形にすることはむずかしかった。引き続き、各団体のラベル誕生までフォローアップしていきたい。
- ・ 訪問相談を通じて、専門家や第三者の客観的な視点が化学反応を起こすと体感することができた。今後もラベルの相談会や、職員研修プログラムを提供していきたい。県単位のネットワークを活かして、今後も講座を企画していく。
- ・ 2020年3月に、当法人では北浦和に移転し福祉のアンテナショップ2号店「マーブルテラス」を開設予定。今後も作業所の販路拡大に貢献したい。



ラベル塾・講義の様子（大宮会場）



広報講座の吉田知津子先生



職員研修@第3川越いもの子